

トマトの会起業塾・池の水をきれいにする方法

手作り水車で水底のヘドロに酸素を送る・・

春、夏、秋にかけて、過密都会の池は、お金をかけてきれいにしないとすぐに悪臭が漂い、時にはユスリカなどの発生に悩まされます。そればかりではなく、不心得者のごみ捨て場になることもしばしばあります。

お金をかけず、近隣の人たちの協力で、池をきれいにする方法の一つが、バイファンという横型水車を浮かべることです。(右写真、横浜市で、トマトの会起業塾)

深さ1メートル内外、面積東京ドームグラウンド(1.2ヘクタール)ぐらいなら、二人で抱えられるぐらいのバイオフィンを40ワット(蛍光灯2ヶ分)の電力で運転し、水底を掃除します。永年の研究の結果、しつこく汚れていた池はCOD(化学的酸素量)を大幅に減らすことができました。



起業塾—— 横浜市二つ池で住民と一緒に3年の実験

悪臭は消え、池に自然が戻った・・・COD 激減(常時 2-4PPM)を実現

トマトの会は、2006年に埼玉県釣堀で使用されているのを見学、(株)自然リサイクル大木秀信

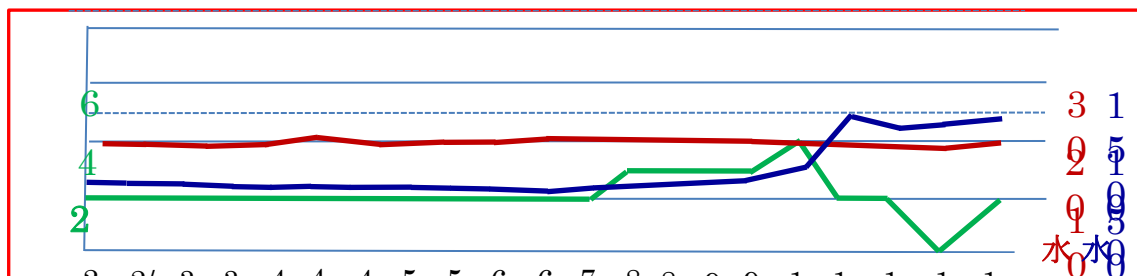
氏、試作者(株)佐々木工作所(横浜市鶴見区・大田区六郷)と共同の研究を開始しました。



2016年から、横浜市環境創造局から許可をもらい、鶴見区の二つ池の一つの1.2ヘクタールの駒岡池で自主的運転をしています。人口密集が続く、この池はヘドロが厚く堆積、悪臭、アオコの充満、蚊の発生、ごみ不法投棄など、困った問題が発生していました。もうあきらめようと、一時は埋め立て論もあったとか。

実験は、現在3年を経過し、最初は景色を忌避されていた池は、毎日湖畔を散歩する近隣市民に「あれを見てよ」と言われるようになりました。

トマトの会はその成果を2017年8月のトマトフェスタ、18年2-3月のおとなのかんきょう楽校とエコフェスタワンダーランドで展示しました。(青線がCODの推移)



興味のある人はトマトの会起業塾に加わりませんか？

トマトの会は、身近なテーマに向き合い、簡単な技術で環境をよくしたり、生活を合理化したり、リタイアした腕利きの人たちの塾(サロン)を営んでいます。参加費は無料、よい仕事を一緒にし

文書名:

トマトの会起業塾・池の水をきれいにする方法

たい、うまくいけば、地域事業にする・・などを視野で楽しく取り組んでいます。

・・・希望者があれば横浜市歌う池への見学ツアーを組みたいと考えております。

文書名：